

更年期医療カウンセリングに関する基礎講座

〔 骨 子 〕

全5回

I. 10月 9日 (土)

II. 10月23日 (土)

III. 10月30日 (土)

IV. 11月 6日 (土)

V. 11月13日 (土)

主催／厚生省心身障害研究「女性保健に関する研究班」

共催／福岡市女性センター アミカス

後援／福岡市

==== 更年期新時代 ====

更年期・医療カウンセリングに関する基礎講座

本講座は厚生省心身障害研究「女性保健に関する研究」班の研究の一環として開講されるものです。
将来的には更年期問題のカウンセリングを養成を目的に試行されます。

【カリキュラム試案】 [総合コーディネーター] 厚生省心身障害研究「女性保健に関する研究班」分担研究者 竹永 和子

	講義内容	講師	日時	場所
I	<p>はじめに 相談概論</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現代女性の意識と生活 ●①更年期女性の心身の課題 ②医療の現場でのカウンセリングマインド技術の必要性 	<p>福岡女性センターアミカス館長 梁井 迪子 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター ストレス科学研究所副所長 河野 友信</p>	<p>10月9日(土) 午後1時半～3時 午後3時～6時</p>	<p>浜の町病院 別館5階 研修講堂</p>
II	<p>心と体と 性</p> <ul style="list-style-type: none"> ●女性センターの相談室における更年期女性の相談 内容と対応について ●更年期からの体の変化 	<p>横浜女性フォーラム相談グループコーディネーター 橋本 黎子 東京大学医学部産婦人科学教室文部教官助手 相良 洋子</p>	<p>10月23日(土) 午後2時半～3時半 午後3時半～5時</p>	<p>中央保健所</p>
III	<p>治療と予 防</p> <ul style="list-style-type: none"> ●更年期障害症状、及び女性の成人病としての診断と治療の概説。 ホルモン療法、その他について ●中年のスポーツ医学、特に更年期女性について女性保健の視 点から ●更年期女性におけるセルフヘルプグループ作りの意義について 	<p>浜の町病院産婦人科不妊症センター部長 中村 元一 筑波大学臨床医学系産科婦人科学教室助教授 目崎 登 九州大学留学生センター講師(臨床心理士) 高松 里</p>	<p>10月30日(土) 午後2時～3時半 午後3時半～5時 午後5時～6時</p>	<p>浜の町病院 別館5階 研修講堂</p>
IV	<p>システム 総 論</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これからの産婦人科医療について システムアプローチと チームアプローチ 女子医大の実践を通して ●女性のトータルライフケアについて(産科・婦人科における女 性保健とは？特に更年期における健康課題について) 	<p>東京女子医大産婦人科学教室教授 井口登美子 秋田大学医療技術短期大学部教授 福島 峰子</p>	<p>11月6日(土) 午後2時～3時半 午後3時半～5時</p>	<p>浜の町病院 別館5階 研修講堂</p>

V コミュニケーション マーケティング おわりに	<ul style="list-style-type: none"> ●今、医療に求められているコミュニケーションとマナーについて 医師と患者の良い関係作りを。 ●女性保健に対するマーケティング的期待 ●これからの女性保健の医療に求められていること 	<p>インターナショナルメディカルグロッシング オフィス院長</p> <p>(株) マーケティングコンセプトハウス代表</p> <p>慶応大学医学部産婦人科講師 社団法人日本母性保護医協会</p>	<p>堂園 涼子</p> <p>梅澤 仲嘉</p> <p>田辺 清男</p>	<p>11月13日(土)</p> <p>午後2時~3時半</p> <p>午後3時半~5時半</p> <p>午後5時半~5時40分</p>	<p>浜の町病院 別館5階 研修講堂</p>
-----------------------------------	---	--	--	--	--------------------------------

【料 金】 資料代のみ3000円。今回は研究・調査（アンケート調査など）にご協力いただくことを条件に受講料を無料とさせていただきます。

主催・厚生省心身障害研究「女性保健に関する研究班」／共催・福岡市女性センター、アミカス／後援・福岡市

受講者 137名（看護婦・保健婦・助産婦・栄養士・医師・主婦・その他）

I. 相談概論 1993. 10. 9

● 現代女性の意識と生活

□福岡市女性センターアミカス館長 梁井迪子

- ・女性のライフサイクルの変化
- ・女性の生き方・考え方の変化
 - : 合計出生数、進学率の推移、結婚観（別姓）、家庭観、仕事観など
 - 子供の教育
- ・女性と仕事
 - : M字型曲線
 - : 仕事を続ける上での障害
 - : 出産後も仕事をつづける為の社会システム
 - : 男女の賃金格差
- ・女性と政治
- ・高齢化社会に向けて
 - : 今いる自分の位置の確認
 - : 更年期以降の人生の過ごし方

● ①更年期女性の心身の課題

②医療現場でのカウンセリングマインド技術の必要性

□財団法人パブリックヘルスリサーチセンターストレス科学研究所 副所長 河野友信

①更年期女性の心身の課題

- ・更年期女性を理解するための基本的事項
 - : 生きてきた背景
 - : 置かれている時代状況
 - : 更年期の発達心理学的課題
 - : 日本の文化・社会と女性—立場と役割
 - : 更年期女性の心身の特性—精神心理的特性を中心に
 - : 更年期女性にみられる病—心身医学・ストレス学的視点から

・現代の我が国の更年期女性の心身の課題と問題

(1) 適応をめぐる課題とその問題

：加齢現象（老化）への適応をめぐる課題と問題

：変貌する家庭・家族への適応をめぐる課題と問題

：時代的社会状況への適応をめぐる課題と問題—世界的不況、地球環境問題など

：変貌する社会への適応をめぐる課題と問題

：その他 依存対象の喪失と変更など

(2) 更年期女性のストレス問題とそれへの対応をめぐる課題

(3) 更年期女性の健康と病をめぐる問題と課題—健康志向時代

②更年期医療現場でのカウンセリングマインドとその技術の必要性

・事例への参加体験学習

(1) 慢性疼痛の働く更年期女性のケース

(2) 婦人科不定愁訴の更年期女性のケース

・我が国の医療の問題—カウンセリングなき医療

・カウンセリングが必要不可欠な更年期女性の健康と病をめぐる問題

・医療とは —医療の基本条件

・医療のプロセス

：信頼あるよりよい医療における人間関係の構築と正しい十分な広く深い情報収集

・カウンセリングとカウンセリングマインド

・日本的・効率的カウセリング

Ⅱ. 心と体と性 1993. 10. 23

● 女性センターの相談室における更年期女性の相談内容と対応について

□横浜女性フォーラム相談グループコーディネーター 橋本黎子

・横浜女性フォーラム概要

：組織と運営

・総合相談事業

：目的—クライアントの自発性と主体的努力とを効果的に発展させることをサポート。

：どのように実践してきたか。

(1) 相談の総合性の重視

- ・相談の範囲（内容）の総合性
- ・人を総体としてとらえる総合性
- ・相談システムの総合性

(2) 処遇への具体的配慮

- ・クライアントの自由性の保持
- ・平等な人間関係の保持
- ・自己解放が可能な物理的条件を満たすこと

・想定される相談事項

：思春期・結婚期・離婚期・妊娠出産期・子育て期・子育てからの解放期・
向老期・老人期 それぞれの時期に想定される相談事項

● 更年期からの体の変化

□東京大学医学部産婦人科学教室文部教官助手 相良洋子

・更年期の定義

・卵巣の働き

：更年期の卵巣の変化

- (1) 月経周期 (2) 妊娠 (3) 卵巣ホルモン分泌の調節機構—視床下部・下垂体・卵巣系
(4) 閉経

・エストロゲンの標的臓器

・更年期からの体の変化

- 更年期障害
 - : 定義 : 症状 : 発症のメカニズム
 - : 日本女性における頻度と実際に感じた症状 (日本婦人会議のアンケート結果より)
- 腔壁
 - : 腔壁におこる変化
 - : 腔壁の変化によっておこる症状
- 排尿障害
 - : 婦人科でよくみられる下部尿路の症状
 - : 尿失禁の発現頻度
 - ・ 更年期の患者における排尿障害の出現頻度
 - : 腹圧性尿失禁のメカニズム
 - : 尿道症候群 (慢性膀胱炎) のメカニズム
- 骨粗鬆症
 - : 定義 : 分類 : 症状 : 退行期の診断基準 : 発生頻度と予測
 - : エストロゲンと骨粗鬆症
 - : 危険因子
- 動脈硬化
 - : 狭義 : 粥状動脈硬化
 - : リスク因子と転帰
 - : 高脂血症と血管疾患
 - : コレステロール (LDL/HDL) 値と血管合併症の頻度
 - : エストロゲンと動脈硬化
 - ・ 閉経と冠動脈疾患の発生率
 - ・ エストロゲン補充療法と心血管疾患による死亡率
 - : エストロゲンと脂質代謝

Ⅲ. 治療と予防 1993. 10. 30

● 更年期障害症状、及び女性の成人病としての診断と治療の概説

□浜の町病院産婦人科不妊症センター部長 中村元一

- ・更年期障害（自律神経失調症）
 - ：更年期によく起こる理由とその原因
- ・更年期障害（不定愁訴）の特徴
 - ：診断法 　：他疾患との関係。
- ・更年期障害の治療法。
 - 治療法—薬物療法（ホルモン療法、漢方療法）・心理療法
- ・ホルモン補充療法（HRT）。
 - ：何故HRTを行うのか？
 - ：患者の疾患、病歴によって変わる使い方。
 - ：腔の粘膜、皮膚、脂質代謝、などへの効果。
 - ：骨粗鬆症への効果
 - ：乳癌の発生率。
 - ：HRTの適応
 - ：期間、副作用、費用。

● 中高年のスポーツ 医学特に更年期女性について女性保健の視点から

□筑波大学臨床医学系産科婦人科学教室助教授 目崎 登

- ・中高年（今講義では40年代半ば以降を対象にする。）の健康上の問題。
- ・肥満とスポーツ
 - ：原因と診断法
 - ：肥満が引き起こす病気。
 - ：治療に有効な運動療法。
- ・高脂血症とスポーツ
 - ：原因と診断法。
 - ：治療に有効な運動療法、食事療法など。
 - ：HRT療法
- ・高血圧症とスポーツ
 - ：原因と診断法。
 - ：治療に有効な運動療法、食事療法など。
 - ：運動と血圧の関係。
 - ：音楽療法。

- ・更年期障害とスポーツ。
 - ：治療に有効な運動療法。(クーパーマン指数)
- ・骨粗鬆症とスポーツ
 - ：予防としての運動療法。
 - ：治療としての運動療法。
- ・中高年の女性にとって運動はどうあるべきか。
 - ：中高年に適したスポーツの条件
 - ：運動処方必要性—メディカルチェックとセルフチェック。
- ・スポーツのデメリット。
- ・運動不足の5つの大罪。

● 更年期女性におけるセルフヘルプグループ作りの意義について

□九州大学留学生センター講師（臨床心理士） 高松 里

- ・セルフヘルプグループとは何か
- ・更年期を受け入れていくために役立つセルフヘルプグループ
- ・グループの作り方
 - ：枠組みの作り方
 - ：活動方法
 - ：広報方法
- ・グループの専門家との繋がり
- ・グループの発展

IV. システム・総論 1993. 11. 6

● これからの産婦人科医療についてシステムアプローチとチームアプローチ ～女子医大の実践を通して～

□東京女子医大産婦人科学教室教授 井口登美子

- ・女性の一生の中の更年期—高年期への入口
- ・更年期障害（更年期不定愁訴症候群）
 - ：原因
 - ：症状
 - ：閉経後に起きやすい疾患
- ・女子医大の実践
 - 婦人成人病外来（器質的疾患・心因的疾患を総合的に診察）
 - ：更年期障害の治療
 - ・他疾患との鑑別
 - ・心理療法—患者と医者の信頼関係の重要性
 - ・漢方療法
 - ・ホルモン補充療法（HRT）
 - ①絶対禁忌者
 - ②相対的禁忌者
 - ③中止時期
 - ：子宮体部・卵巣疾患の手術前の説明法とその効果
 - ・「病状状況」「手術内容」など患者の情報を事前に記入した用紙を使用。
 - ・“退院学級”の実施
 - ：今後の課題
 - ・婦人科定期検診の必要性～グループ単位での予約制など

● 女性のトータルライフケア

産科・婦人科における女性保健とは？特に更年期における健康課題について

□秋田大学医療技術短期大学部教授 福島峰子

- ・急速に進む日本の高齢化
- ・高齢における身体機能と精神機能の変化
- ・加齢にともなうエストロゲンの変化とその調節機能
 - ：エストロゲンの低下による身体の変化

- 閉経年齢との相関関係
 - ：初潮年齢 ：分娩回数 ：卵巣の数
- 女性のライフサイクルに大きく影響するホルモンの変化
- 自律神経
 - ：身体を大きく支配する自律神経
- 更年期障害における自律神経失調症
 - ：診断 ：症状 ：治療 ：他疾患との鑑別とプロセス
- 心因性の更年期障害
 - ：原因 ：治療
- 骨粗鬆症
 - ：骨のサイクルリズム ：発生率の男女差 ：原因 ：診断
 - ：カルシウム摂取量と骨折率の比較
 - ：運動量と骨量の比較
 - ：治療と予防—HRT
- コレステロール
 - ：血管系との相関関係
 - ：コレステロールと様々な血管障害
- 子宮ガン：乳ガン
 - ：予防としての最も有効な検診
 - ：診断法
- 尿失禁

V. コミュニケーション・マーケティング・おわりに

1993. 11. 13

● 今、医療に求められているコミュニケーションとマナーについて 医師と患者の良い関係作りを

□国際ナショナルメディカルクロッシングオフィス院長 堂園涼子

・総論

: ハード

(1) 施設 (2) システム

: ソフト

・未知との遭遇をキーワードに

・未知との遭遇を円滑にするために

: 服装 : 言葉 : 態度 : その他

: キーワード “プライバシーの尊重”

・自己評価/客観的評価・判定

補助手段として

(1) 医師・患者 関係スコア

(2) 堂園式 8つの誓い

・まとめ

: 医者が医者に思うこと (中谷義男 絶筆より)

: 堂園式 4つのA

● 女性保健に対するマーケティング的期待

□(株) マーケティングコンセプトハウス 代表 梅澤伸嘉

・ニーズ

: 潜在ニーズと顕在ニーズ

(1) 変化するニーズ (2) 条件がつくニーズ (3) 条件が変化するニーズ

: 提示されて初めて気がつく潜在ニーズ

・本音と建前と嘘

: 建前と嘘の違い

キーワード⇒「自分にとって」に置き換えて考える

- ・女性保健におけるマーケティング
 - ：ニーズ・行動・満足の関係成立＝マーケティング
 - ：未充足の強い本音ニーズを掘り起こすには
 - ・CPバランス理論（コンセプト・パフォーマンス）
- 女性消費者の本音を掘り起こす秘訣
 - ・反論・批判に感謝する
 - ・真剣な傾聴態度を示す
 - ・発言に対して「その人にとって」という言葉をつけて考えてみる。
 - ・発言をほめる
 - ・その人の立場になって発言を頭で置き換えてみる
 - ・本音を言った方が得だと思わせる
- ：患者は消費者であると同時に生活者であることを理解する。

● おわりに

□ 慶応大学医学部産婦人科講師 田辺清男
 社団法人日本母性保護医協会

- ・日本母性保護医協会とは
- ・社会の流れに伴い変化する女性のライフスタイル
- ・産婦人科医の現状
- ・更年期障害の患者を扱う上での問題点
 - ：現保険制度では困難なカウンセリング
 - ：ホルモン療法についてのコンセンサスが不十分
 - ：心身症を扱える産婦人科医の不足
- ・母性保健から女性保健へ
- ・関係協力者への感謝の言葉

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

更年期医療カウンセリングに関する基礎講座